

JA オホーツク網走 SDGs の取り組み

国際社会共通の目標 SDGs とは？

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称であり、2015年9月に国連サミットで採択された国際社会共通の目標のことです。基本理念は「誰一人取り残さない」ことで、持続可能な世界の実現を目指し、貧困や飢餓、エネルギーや環境問題などの課題を解決していくために作られました。

SDGs は 17 のゴール(目指す姿)と、ゴールを達成するための 169 のターゲット(具体的な達成基準)が設定され、目標達成は 2030 年までとされています。

Sustainable 持続可能な **Development** 開発 **Goals** 目標

SDGs と協同組合

SDGs の「誰一人取り残さない」という基本理念は、協同組合の「一人は万人のために、万人は一人のために」といった相互扶助の精神と深く繋がっています。利潤の追求を目的としない協同組合は、地域の人々の協力・理解が無ければ存続できないため、地域コミュニティと一体である必要があります。

そして、その地域コミュニティへ向けた取り組みが、SDGs の目標達成のために大きく貢献していることから、協同組合は SDGs 実現の重要なパートナーとして位置づけられています。

協同組合の一つである「JA」の綱領の中にも、SDGs に関連した内容が盛り込まれています。

森林整備による環境負荷低減の取り組み

当JAは、網走市と大空町東藻琴に約140haの森林を所有しており、その森林は、推定314CO₂t(年間)の二酸化炭素を吸収しています。

今後も、森林経営計画に基づく間伐事業など森林整備の活動を通じて環境負荷低減、SDGs に取り組みます。

